

新しい、^{マル}●^{マル}●が能率 を上げる。 能率研究所

主催 日本能率協会

NEW

協力 電通Bチーム

一見無駄に思えるあそびや回り道
できるだけ少なくして、
能率向上をはかる動きが増えています。
無駄をなくし合理化することは
正攻法ではありませんが、
能率を上げるためのアプローチは、
それだけではないはずです。
画一的なルールや制度ではなく、
多様性を認める余白の部分にも、
能率アップのヒントがあるのでないか。
そんなことをみんなで考える研究所を
立ち上げることになりました。

その名も、**新しい能率研究所。**

いままでとはちょっと違うアングルから、
能率向上について考え、実践する場です。
まずは「○○が能率を上げる」
をテーマにした、
全6回のプログラムからスタート。
能率向上の新しい可能性を
さぐってみたいと考えるあなた
ご参加をおまちしております。

INPUT SESSION

第1回 一次情報が能率をあげる。 11月2日(木)19:00~22:00@アーツ千代田3331

電通Bチームのリサーチャーはそれぞれが担当ジャンルを持ち、その領域を常にリサーチしています。当日は5人のリサーチャーが集合し、各ジャンルで仕入れた一次情報を共有。参加者も交えて語り合います。検索しても出てこない一次情報が、思いがけないひらめきやインスピレーションを生み出します。

第2回 遊びが能率をあげる。 11月17日(金)19:00~22:00@Midori.so永田町

遊びからすごい成果を生み出す人がいます。IDEEを創業し、自由大学やみどり荘などを立ち上げ続ける黒崎輝男さんもそのひとり。黒崎さんをお招きし、みどり荘を運営する木下明さん、小柴美保さんも交えて遊びと能率の関係についてひもときます。聞き手は電通Bチームのリーダー兼遊び人の倉成英俊。

第3回 B面が能率をあげる。 12月15日(金)19:00~22:00@Nagatacho GRID

副業や「二枚目の名刺」が注目を集めていますが、Bチームのメンバーはみな個人的な「B面」を持っています。A面(会社の仕事)にB面をいかす方法や、会社にB面を認めてもらうコツなど、B面の活用法をご紹介します。個人だけでなく、会社にBチームをつくる方法も掘り下げてお教えします。

第4回 独自手法が能率をあげる。 1月19日(金)19:00~22:00@Clipニホンバシ

誰かのやり方を鵜呑みにするのではなく、独自のやり方を開発することが能率アップにつながるとBチームでは考えています。クライアントの課題解決にも使用している「ショートショート発想法」は、Bチームで独自開発したものです。そのワークショップを通して、独自手法が能率アップにつながることを体験していただきます。

OUTPUT SESSION

第5回 ○○が能率をあげる。(あなたバージョン) 2月16日(金)19:00~22:00@Clipニホンバシ

4回のINPUTもふまえながら、参加者自身が「○○が能率をあげる。」という仮説をたてます。それぞれが考える「新しい能率」を発表し、Bチームメンバーや他の参加者とディスカッション。マーケティング総合大会やメディアでの発信を念頭にいれながら、研究所参加者みんなでアイデアをふくらませます。

第6回 ○○が能率をあげる。(あなたバージョン・実践編) 3月16日(金)19:00~22:00@Nagatacho GRID

第5回でブラッシュアップした仮説を、参加者自身が一月かけて実践してみます。その実践結果を、研究所メンバーで共有。「新しい能率」の仮説から実践・検証までをおこない、その成果を発信します。

- 参加お申込について
- 参加料 全6回申込…48,600円 / 1名(税込) 各回ごと申込…10,800円 / 1名(税込)
- 参加定員 各回50名 ●参加申込方法 <http://jma-mklab.com/>

- プログラム・申込に関するお問合せ
一般社団法人 日本能率協会 経営人材センター マーケティング総合大会事務局
担当:田部(たなべ) ☎03-3434-1955 ✉Aiko_Tanabe@jma.or.jp

主催

日本能率協会

1942年に創立された経営・マネジメントに関する専門団体。
創立以来、製造業のプロセス革新や人材育成を通じ、日本のものづくり産業の成長に貢献。
1965年から「マーケティング総合大会」を開催し、
企業の商品開発やマーケティング活動を支援している。

協力

電通Bチーム

ブランB(=オルタナティブなアプローチ)を提供する電通内のチーム。
「好奇心ファースト」を合言葉に、社内外の特任リサーチャー40人が
それぞれの得意分野を1人1ジャンル常にリサーチ。そこから得られる仮説やコンセプトを活用しながら、
新商品の開発や独自メソッドの開発など多様なプロジェクトを立ち上げ・支援している。